

投稿規定の改訂について

編集委員会

『環境教育』投稿規定を2008年3月8日より以下のように改訂しました。

1. 投稿は本学会会員に限る。ただし、筆頭著者以外に非会員を含むことができる。また、編集委員会
が依頼する場合は会員・非会員を問わない。
2. 投稿原稿は、環境教育の研究や教育実践に貢献するものであり、他の刊行物に未発表の原稿とする。
3. 投稿の区分は、研究論文、総説、報告、評論、資料、書評、その他とする。
 - (1)研究論文は、理論的または実証的な独創性のある研究、および独創的または有効性のある教育実
践研究、教材・教具・教育システム等の開発研究とし、論文として完結した体裁を整えているこ
と。
 - (2)総説は、研究、教育実践、新しい思潮、政策に関して一定の分野を系統的に概観し、課題の整理
や評価・展望を行っている論文とする。
 - (3)報告は、教育実践、国内外の動向、施策の状況などを論じたものとする。
 - (4)評論は、環境教育の研究や教育実践を批評し論じたものとする。
 - (5)資料は、環境教育に関する情報提供とする。
 - (6)書評は、環境教育に関する図書の紹介や批評とする。
 - (7)その他、編集委員会が認めた区分を適宜設けることができる。
4. 投稿原稿は編集委員会で閲読を行い、その採否は編集委員会が決定する。研究論文および総説は、
複数の査読者による査読を経て、編集委員会が採否を決定する。
5. 投稿原稿は刷り上がり時において、研究論文および総説では12ページまで、報告、評論、資料は
8ページまで、書評は1ページまでとする。超過ページ数は2ページを限度とし、投稿者が1ペー
ジ当たり2万円を支払うこととする。
6. 原稿執筆については、以下の通りとする。
 - (1)使用言語は、日本語または英語とする。
 - (2)研究論文、総説、報告、評論、資料には、表題、著者名、所属、英文表題、英文著者名、英文所
属を記載すること。
 - (3)研究論文と総説は、上記(2)の他に、英文要約(300 words以内)、英文キーワード(5語以内)
をつける。(また、英文要約を付した原稿の場合は、参考として英文要約の日本語訳を付すこと)
 - (4)原稿はすべてA4判で横書きとする。原則としてパソコン・ワードプロセッサで作成し、22字
×41行の2段組とする。文字の大きさや字間、行間は読みやすいように留意する。
 - (5)文体は「である調」とし、原則として当用漢字、新仮名づかいを用いる。英数字(アラビア数字)
は半角文字を用いる。
 - (6)年次については西暦年次の使用を原則とし、元号を使用する場合には、初出の年次に平成〇〇

(20〇〇)年と西暦年次を併記する。

(7)学術用語は文部科学省の学術用語集を参考とする。生物の和名はカタカナ、学名はイタリックとする。

(8)文献の引用は、著者名(発表年)または文末に(著者名 発表年)と記入する。後者の場合、著者名と発表年の間を半角空ける。

(9)注は、その箇所の右肩に¹⁾のように通し番号を記し、本文の最後にまとめて記載する。

(10)引用文献の配列順序は著者名でアルファベット順とし、下記の様式に従い記載する。

単行本の場合：著者名，年，『書名』，発行所，発行地，総ページ数。

単行本中の分担執筆論文の場合：著者名，年，「論文名」，編著者名，『書名』，発行所，発行地，掲載ページ。

雑誌の場合：著者名，年，「表題：副題」，『雑誌名』，巻号：掲載ページ。

(11)文献や注にインターネット上のURLを記載する場合は、アクセスした年月日を明示する。

(12)図(写真を含む)・表は原稿本文とは別に1枚ずつ作成する。図はそのまま写真製版して印刷できる明瞭なものとする。図中の文字は指定の大きさに縮小しても明瞭に判読できるよう配慮する。図の説明は別紙に書き、本文の余白におおよその挿入位置と大きさを指定する。

7. 投稿については、元原稿1部と査読・閲読用に氏名、所属を×××××で表示して氏名、所属をわからないようにした原稿2部の計3部および原稿送り状(学会誌巻末に印刷)を編集委員会事務局に提出する。併せて、原稿の電子ファイル(テキスト、ワードまたは一太郎のファイルのいずれかをフロッピー・ディスクまたはCD-Rに保存したもの)も送付する。

8. 著者校正は初校のみとし、再校以降は編集委員会の責任において行う。

9. 著者が別刷を必要とする場合は、初校時に申し出る。その実費は著者が負担する。

10. 掲載された論文等の著作権は日本環境教育学会に属する。

11. 投稿原稿は原則として返却しない。

(付記) 1997年7月5日、1999年9月11日、2004年10月3日、2006年7月8日、2008年3月8日改訂

編集委員会事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部 環境教育学研究室 気付

TEL & FAX : 042-367-5597

E-mail : sfurihat@aol.com

原稿執筆要項

- (1)表題及び本文の使用言語は、日本語または英語とする。
- (2)研究論文、総説、報告、評論、資料には、表題、著者名、所属、英文表題、英文著者名を記載する。
- (3)研究論文と総説は、上記(2)の情報の他に、英文要約(300語以内)、英文キーワード(5語以内、アルファベット順)、英文所属をつける。原則として英文表題と英文要約は英語を母国語とする専門家の校閲を受けたものとする。なお、編集委員会での審査を速やかに行うために英文要約の日本語対訳を別紙で添える。ただし、この日本語対訳は印刷されない。
- (4)研究論文、総説、報告、評論、資料が英語の場合、日本語の表題、著者名、所属、要約(250文字)をつける。
- (5)本文(はじめにまたは緒言以降の文章)は、パソコン・ワードプロセッサで作成し、A4版の用紙に横書き22字×41行の2段組とする(英文の場合も2段組とする)。文章は明朝体とし、章、節、項の見出しはゴシック体とする。また、原稿にはページ番号を記す。
- (6)原則として、原稿の章の見出し番号はⅠ、Ⅱ、Ⅲ、節の見出し番号は、1、2、3、とし、項の見出し番号は、1)、2)、3)、とする。
- (7)句点は「、」、読点は「。」とし、1文字分を占めることとする。
- (8)文体は「である」調とし、原則として常用漢字、新仮名づかいを用いる。英数字(アラビア数字)は半角文字を用いる。
- (9)学術用語は文部科学省の学術用語集を参考とする。生物の和名はカタカナ、学名はイタリックとする。
- (10)学名、人名、地名、日本語訳が定着していない用語を除き、外国語綴りまたはそのカタカナ表記はなるべく用いない。
- (11)原稿送付前に表記のゆれがないことを確認する。例えば、「従って」「したがって」をどちらかに統一する。
- (12)本文中の文献引用は、著者名(発表年)または文末に(著者名 発表年)と記入する。後者の場合、著者名と発表年の間を半角空ける。ページ数を表記することが必要な場合には、著者名(発表年 ページ数)または(著者名 発表年 ページ数)とする。この場合も、発表年とページ数の間を半角空ける。連名の場合は著者の間に・で区別し、3名以上の著者の場合は、筆頭者のあとに「ほか」もしくは「ら」と記載し、それ以下の著者名は省略する。文献は引用文献一覧として論文の末尾に記載する。
- (13)本文中に「注」を用いる場合は、その箇所の右肩に(1)のように通し番号を記し、本文の最後にまとめて記載する。引用文献と注の両方を活用する場合、注の一覧を先に引用文献一覧を後にまとめて記載する。
- (14)引用文献一覧の配列順序は、和文献と洋文献を区別しないで、筆頭著者の姓のアルファベット順とし、下記の様式に従い記載する。なお連名の場合、著者の間に・を入れ、全ての著者名を記載する。なお、引用文献一覧の句読点は「,」「.」とする。

単行本の場合：著者名，年，『書名』，発行所，発行地，総ページ数。

(例) 山田太郎，2008，『環境教育の歴史』，環境出版，東京，257pp。

単行本中の分担執筆論文の場合：著者名，年，「論文名もしくは執筆タイトル」，編著者名，『書名』，発行所，発行地，掲載ページ。

(例) 山田太郎, 2008, 「環境教育と人間発達過程」, 鈴木花子・田中次郎編『日本における環境教育研究の発展過程』, 環境出版, 東京, 129-156.

雑誌の場合: 著者名, 年, 「論文表題: 副題」, 『雑誌名』, 巻号: 掲載ページ.

(例) 山田太郎・鈴木花子, 2008, 「環境保全活動における参加者の環境に関する知識の変化」, 『環境教育』, 34: 129-138.

欧文の参考文献の場合、単行本や雑誌の名称はイタリック体とする。

(15) 同一年に同一著者の引用があった場合、著者名、年のあとに、a, b, cを入れる。

(16) 英文表示の著者名は、下記のように姓を先に記載し、カンマをつけファーストネーム等と区別すること。

(例) Yamada, T. and Suzuki, H., 2008, Developmental Process of Environmental Education Study in Japan, *Environmental Education*, 2 (2), 8-21.

(17) 日本語、英語以外の文献については、必要に応じて原語表記に括弧書きで日本語訳、英語訳を付す。

(18) 巻・号のある雑誌で通巻ページの場合、号数は省略する。毎号ページが変わる場合には号数を () に入れ、例えば、2(2) のようにしてページ数を記載する。

(19) 引用文献一覧に印刷中または in press を付すことができる文献は、その論文がすでに受理されている場合に限ることとし、当該論文の複写を投稿論文送付とともに同封する。

(20) インターネット上の URL を引用する場合は「注」扱いとし、公表機関または公表者と URL アドレスおよびホームページを確認した日付を記す。投稿者はこの URL のデータを論文公表後 4 年間保存する。

(21) 図については、以下の要領に従い、本文原稿と別に 1 枚ずつ作成する。

図の大きさは A 4 版とする。図は電子ファイルかインクで明瞭に書かれたものに限る。

図の凡例はそのまま印刷に使用するので、図と一緒に明瞭に書く (描く)。

図のタイトルおよび説明は、図の番号を付して別に書く。また本文中に希望する図の挿入箇所を朱書きする。

図は縮小率等を勘案して見やすいものを作製すること。縮小率は編集委員会が決めるが、投稿者の希望があれば別途記載すること。

図の電子ファイルの場合、そのファイルを提出する。ただし、明瞭に印刷したのも必ず添付すること。

(22) 表についても本原稿とは別に 1 枚ずつ作成する。また以下の要領に従う。

表は、縦・横の罫線による枠組みの中に文字や記号を記入したものに限り。罫線間の長さに意味がある場合や曲線を含むもの、また枠の中に図が描かれたものは「図」扱いとなるので、上記(21)に基づき作製する。

表のタイトルおよび説明は、表の番号を付して別に書く。また本文中に希望する表の挿入箇所を朱書きする。

表が電子ファイルの場合、そのファイルも提出する。ただし、明瞭に印刷したのも必ず添付する。

(23) 論文の理解に必要な調査票等は、分量が多い場合、付録として最末尾に記載することができる。ただし、本文との釣り合いを考え、付録が多くなり過ぎないようにする。

(24) 原稿の送付に関しては投稿規定にある手順で送付する。